

阿智村事務事業評価シート

事務事業名	治部坂高原別荘管理事業	担当者	地域経営課	浪合振興室
-------	-------------	-----	-------	-------

①事務事業の概要

総合計画での位置づけ	3. 地域を支える力強い産業の村／産業の振興／観光業の振興
関連する主な計画等	
根拠法	阿智村治部坂高原別荘管理事務所設置条例
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託 <input type="checkbox"/> 補助金交付 <input type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他
事業の対象者	特産物の商品開発のため、FD器機等を使用し加工利用する村民
事業開始年	H40 <input type="checkbox"/> 時期不明 <input type="checkbox"/> 事業の終期 <input checked="" type="checkbox"/> 終期末定

②事務事業の計画(PLAN)、取組(DO)

実施目的	別荘を所有し、利用をすることにより交流人口の増加と、村内の農産物や商店の利用による経済効果の増加を図る。又、別荘を利用することにより景観維持が図られる。					
具体的取組	<p>○事業経過・遊休地(山林)の有効活用や、村の活性化又、雇用の創出などを目的とし、昭和40年より借地による別荘開発を行ってきた。別荘の主な所有者は中京圏を中心とした方々で、夏の涼しさや冬のスキーといった高原でしか味わえない楽しみを求めて多くの方が利用してきた。45年間余の歳月が経過し、利用者の高齢化や世代交代が進んでいる。</p> <p>○契約者数：203名、契約区画数：230区画。</p> <p>○事業内容・別荘等管理や環境整備を行い、利用増大を図る。「別荘会」と協力しながら各種イベントの企画と開催を行っている。(キノコの植菌、花桃見学、浪合夏祭協賛と参加、史跡めぐり、紅葉見学、イモ煮会、干し柿作りなど)</p>					
実績・効果	<p>○環境整備や道路改良を行うことで、居住環境の向上と別荘のイメージアップが図られた。</p> <p>○祭等地域住民との交流が徐々に進みつつあるが、近年は減少傾向にあるため、関わりを持つ方法を考えていく。地域の拠点である治部坂高原に賑わいを復活させるために、別荘の方の力が大いに必要である。利用者の増加は、地域内の施設利用によって経済効果が期待される。</p>					
歳出の内訳 (千円)	項目	金額	項目	金額	項目	金額
	給料	3,709	需用費	2,278	積立金	2,100
	職員手当	2,492	役員費	444		
	共済費	1,202	委託料	653		
	賃金	1,488	工事請負費	27,946		
事業コスト	区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度
	実績額 (千円)	33,237	42,453	42,312	34,000	34,000
	うち一般財源	9,000	21,277	27,749	21,500	21,500
	うち補助金					
	うち個人負担	12,393	11,960	14,563	12,500	12,500
従事職員(人)	正規職員	1	1	1	1	1
	臨時職員					

③評価(CHECK)

区分	個別判定	判定理由	総合判定	
必要性	住民のニーズは高いか	c	村民を対象とした事業ではないが、村内施設等の利用などの効果はある。	B
	手段、成果は妥当か	b	一定の成果はある。利用者増加の為に、別荘の新規契約(中古物件含む)をより一層推進する。	
	対象者の設定は妥当か	b	別荘契約者を対象としており、妥当である。	
	村の関与は妥当か	b	日常管理業務など、民間に委託できる部分がある。	
有効性	期待された効果が得られたか	開発当時から十分に得られていた。今後も期待できる。	B	
効率性	コストの削減に努めたか	b	必要最低限の職員と臨時職員で対応している。	B
	効率性を高める工夫はされたか	b	管理業務の一部を民間に委託することにより、利用者に対してよりスムーズで濃密なサービスが行える。	
公平性	受益者負担は適切か	ここ数年は負担額(管理費・使用料)を値上げをしていないが、收支状況からすればほぼ適切である。水道使用料については値上げの検討も必要と思われる。	B	
総合評価	B			

④改善(ACTION)

事業の方向性	継続・維持
課題	別荘契約者が世代交代を向かえ、これからの利用率低下が危ぶまれる。治部坂高原の魅力を発信し、契約者が足を運んでいただくための仕組みづくりが重要である。管理事務所は、別荘や住民の交流の拠点施設で、常時人で賑わっていることが求められる。また滞納整理と、老朽化した施設(水道・道路・水路等)の早期整備が課題である。
今後の取り組み	利用率の向上のための仕組みづくりを行い、多くの方が利用することにより別荘地内が常時賑わいをみせ、治部坂高原活性化の原動力の一つとなるよう、別荘会とも協力し活動をおこなう。環境整備についても引き続き計画的に進めていく。